

岡大型URAの活動と課題



岡山大学 理事(研究担当)・副学長
山本 進一

2016年3月6日(日)13:00~18:00 文部科学省委託調査研究URAシンポジウム



①リサーチ・ユニバーシティ(研究大学)岡山大学の実現

国際的学術成果の提示ができるリサーチ・ユニバーシティとしての岡山大学の地位確立。

②大型プロジェクト研究グランドデザイン構築支援

社会が注目する課題解決に向けた岡山大学主導の大型プロジェクト研究のグランドデザイン構築(=研究戦略構築)。

③他機関連携型大型プロジェクト研究起動

他大学や研究機関との広域連携による大型プロジェクト研究体制を軌動。

④国家レベル大型プロジェクト研究の提案

国家政策方針に合致した大型プロジェクト研究テーマを選定し、岡山大学内外の連携体制を確立した後に関係省庁へ提案。

⑤URA人材の育成・確保

岡山大学におけるURAとしてふさわしい人材を育成し、長期的視点から人材の発掘。

はじめに:岡山大学URA 8つの役割



研究環境の改善と改革のブレン

経営陣に対して、研究環境の改善と改革の起案・遂行にあたるブレンとしての役割



研究者と経営陣の仲介役

研究者の意見・諸案を広く集約し、経営陣に上申する、経営者と研究者を仲介する役割



社会や研究現場における経営陣の代理人

社会や研究現場に経営陣の研究方針(リサーチ・ユニバーシティ:岡山大学)の伝達と定着を図る代理人としての役割



研究者と研究者を繋げ支えるServant Leader

支配型リーダーではなく、全体最適化の視点から個々の研究者に奉仕・調整しながら事案をとりまとめる調整型リーダー(Servant Leader)としての役割



URA

社会と研究者を繋げる橋渡し役

社会のニーズと研究者の志向を把握し、双方にとってももっともインパクトのある成果が得られる仕組みを構築する役割



新市場創出を大学から行うプロモーター

新たな市場創出への道筋を考え、大学として発信する学術シーズを次のプレーヤー（企業等）にシームレスに引き渡すプロモーターとしての役割



information

URA

ファンディングエージェンシーとの情報収集役

ファンディングエージェンシーと深く関わり、新規助成・研究計画などの情報をいち早く獲得する役割



社会に通用する研究人材の育成役

社会・教育・研究全般を見通せるジェネラリストとしての研究人材を育成する役割

岡山大学URA: 働きやすい職務環境の構築へ

岡山大学リサーチ・アドミニストレーター(URA)

University Research Administrator



どの学部、研究科、センター、事務にも属さない学長直属の組織

横串を通す組織

研究担当理事と共に行動する執行部の研究系ブレイン組織

研究系高度マネジメント人材

教員、事務職員のどちらにも属さない、今までにない新しい職

第三の職種

URA同士の職務の上下・指示関係が一切ない組織

フラットな組織

学長においてのみ、その職務のすべての責任を負う

指揮命令系統の明瞭化

今までにない職には、新たな職務環境を構築することが
個人と組織の能力を最大限かつ効果的に発揮させる最善の策

大学での働き方 【従来】

事務職員: 一般労働制

規定で決められた時間内で職務に当たる労働制。
日本で一般的な労働制。

教員: 専門業務型裁量労働制

業務遂行の手段及び時間配分の決定等について本人の裁量に委ねられる。
学校教育法に規定する大学における教授研究の業務に当たる者に適用。

岡山大学URAは

- ・事務職員でも、教員でもない。関連規定、給与体系などもすべてURA用に新たに設けられている。
今までにない「第三の職種」である。
- ・主な職務は、執行部の研究系ブレーン組織として研究大学の企画・運営等を担う、「研究系高度マネジメント人材」である。



⇒ 一般労働制、専門業務型裁量労働制のどちらにも当てはまらない職



「企画業務型裁量労働制」を適用

企画業務型裁量労働制

- ・事業の運営上の重要な決定が行われる組織(企業の本社等)において企画、立案、調査及び分析を行う労働者を対象とする。
- ・厚生労働省が所管し、平成12年4月より施行(平成16年1月より一部要件・手続き緩和)。

岡山大学ではじめて導入

- ・平成24年9月に岡山大学URAが配置後、人事課や関係事務、教員の多大な貢献により、平成25年度から導入開始。
- ・企画業務型裁量労働制の労使委員会を適時開催、労働基準監督署へ報告。

⇒ 大学において“極めて珍しい”適用(文科省、他大学関係者が驚きの声を挙げる点)
岡山大学URAへの他大学からの視察・組織制度意見交換が絶えない点のひとつ。

(平成27年6月現在、他大学からの視察・組織制度意見交換は、15研究機関、30名以上にのぼる)



国が進めているURA制度の運用と制度定着において、
岡山大学URAが「先導的・革新的組織」として捉えられている

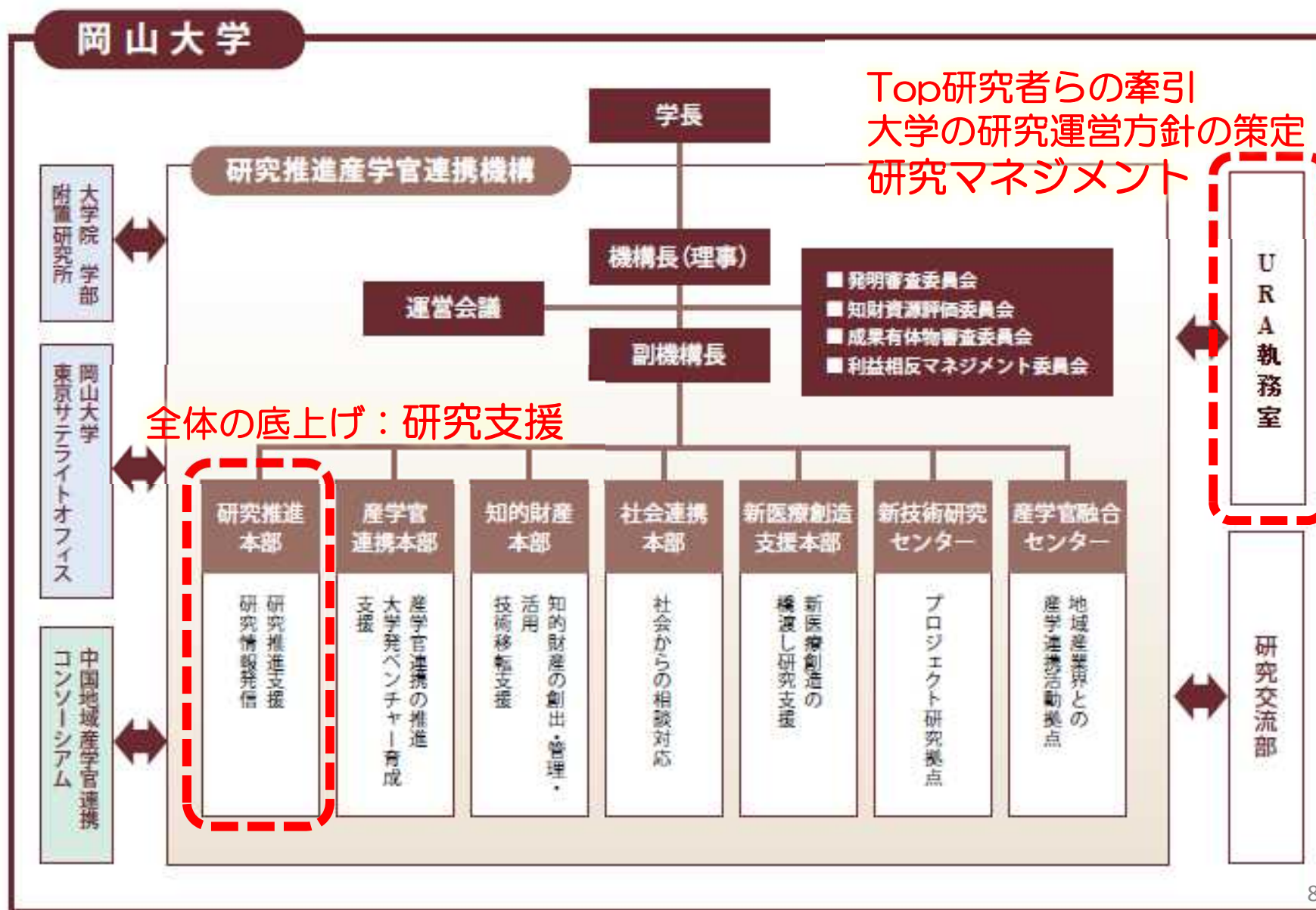


働きやすい職務環境の構築のもと、執行部、教員、事務職員らと共に
更なる研究大学運営の強化促進へ
常に「先導的」、「革新的」であるこだわりを大切に

岡山大学研究推進本部との違い



岡山大学
OKAYAMA UNIV.



岡山大学URAが中核を成す大型プロジェクト



1. 岡山大学の理念

“高度な知の創成と的確な知の継承”

2. 岡山大学の目的

“人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築”

3. 岡山大学の目標

(1) 教育の基本的目標

国内外の幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行う。

(2) 研究の基本的目標

常に世界最高水準の研究成果を生み出すことをその主題とし、国際的に上位の研究機関となるよう指向する。

(3) 社会貢献の基本的目標

社会が抱える課題を解決するため総合大学の利を生かし、大学の知や技術の成果を社会に還元すると同時に積極的に社会との双方向的な連携を目指す。

(4) 経営の基本的目標

研究、教育の目標を効果的に達成するため、大学に賦存する人材、財政、施設設備などの資源をトップマネジメントにより戦略的に利活用する。

(5) 自己点検評価の基本的目標

不断の自己点検評価を実施し公表するとともに、その結果を的確に大学改革に反映する。



森田 潔 学長
M.D., Ph.D.

岡山大学

岡山大学の大型研究体制

岡山大学病院



基礎研究、異分野融合研究を臨床へ

文部科学省「橋渡し研究加速ネットワーク事業」
研究拠点

厚生労働省「国産医療機器創出促進基盤整備等
事業」実施機関



文部科学省

「研究大学強化促進事業」
選定大学

厚生労働省

「臨床研究中核病院」
選定病院



経済産業省

「医工連携事業化推進事業」実施機関

社会実装化

医工連携
医薬品・医療機器開発



革新的
材料開発

岡山大学アドバンスナノカーボン
複合構造材料研究開発センター
文部科学省「革新的イノベーション
創出プログラム(COI STREAM)」
サテライト拠点



革新的異分野融合
ウイルス対策

岡山大学先導・革新的ウイルス
不活性化技術研究コンソーシアム
農林水産省「革新的技術創造促
進事業(異分野融合共同研究)」
研究拠点



科学イノベーション
創出

エネルギーキャリア、インフラ維持
管理・更新・マネジメント技術、
革新的燃焼技術プロジェクト
内閣府「戦略的イノベーション
創造プログラム」実施拠点

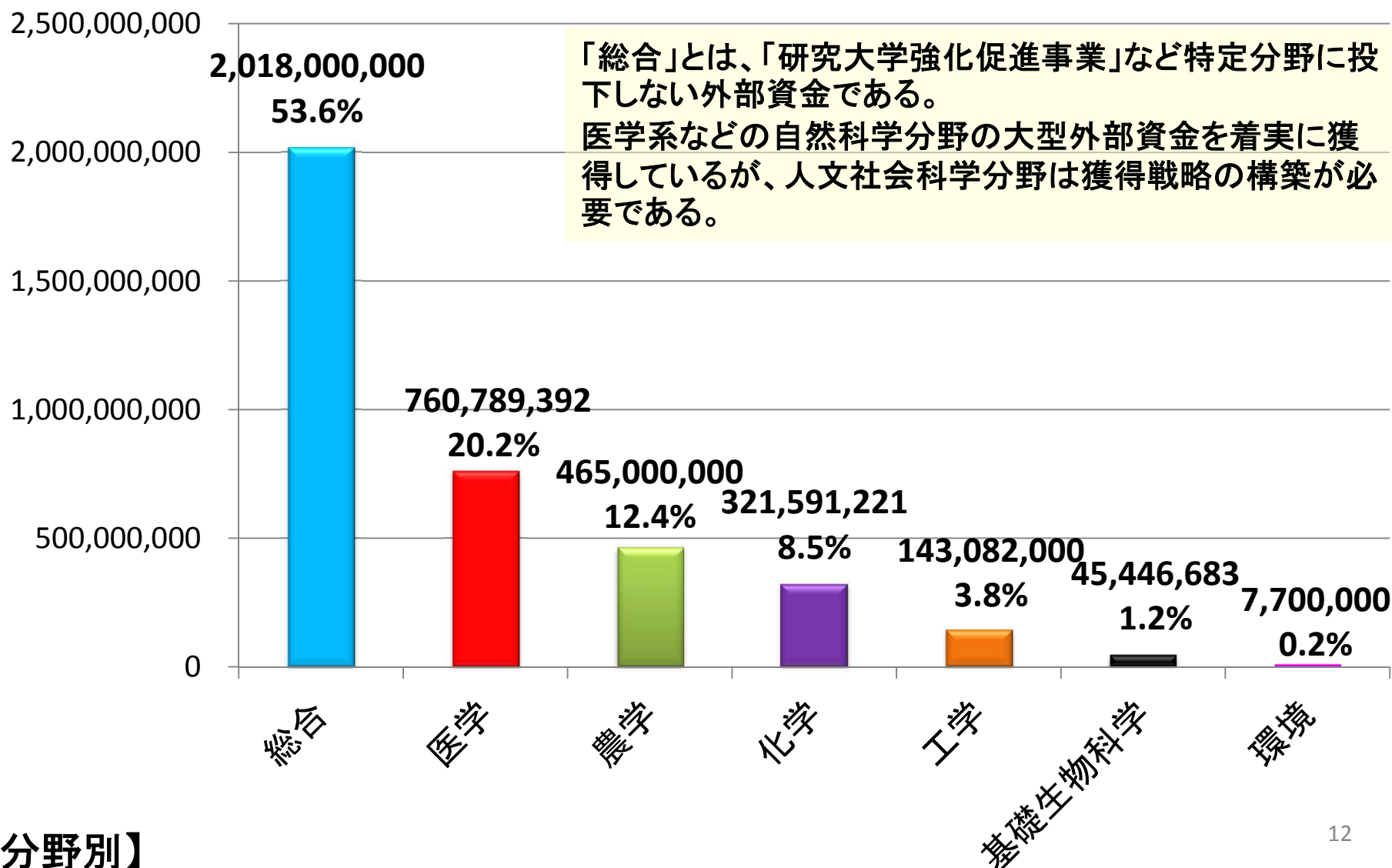
URA獲得外部資金の概要(2012.9 – 2014.12)



岡山大学
OKAYAMA UNIV.

URA設置2年半での獲得外部資金の合計は37.6億円

円



【分野別】

「グローバル最先端異分野融合研究機構：G研究機構 II」



戦略的研究経営システム改革: 社会展開と学術継承 高度研究系マネジメントシステム「岡山大学URA」との協働 G研究機構 IIを基幹とする「科学技術・学術研究マネジメントシステムの確立」

最先端異分野融合研究機関「G研究機構II」で生み出されるイノベーション・シーズの育成と社会へのプロモート戦略策定



高度研究系マネジメント人材である岡山大学URAが担当理事らと主導。秀逸シーズ、共通シーズの選定、育成、プロモート戦略を策定

学術シーズは…

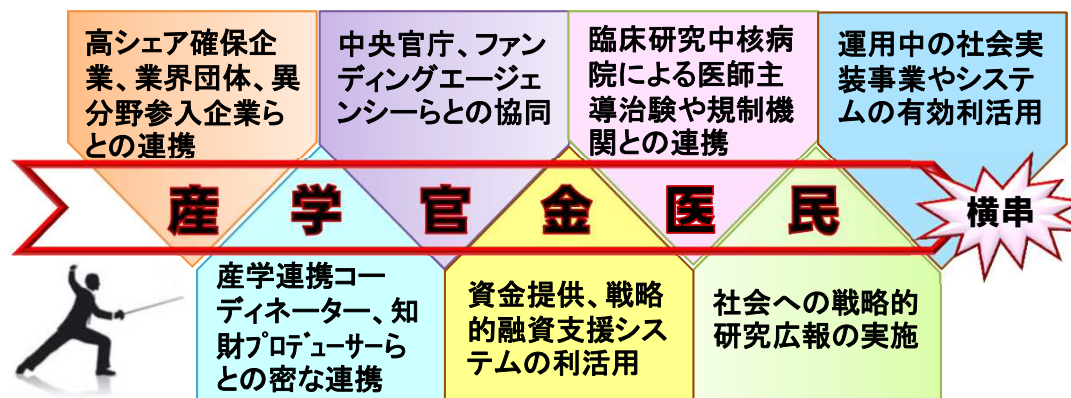
新たな学術の基礎を育成・継承



人類社会で唯一、「学術」を担う組織である大学として、G研究機構IIで見出された新たな学術の基礎を育成し、継承する責任を果たす。



イノベーション・シーズの産学官金民への戦略的プロモート



岡山大学URAが構築・実績を残してきた世界的な産学官金医民ネットワークを最大限に利活用し、戦略的プロモートを実施。産学官金民各分野に“横串”を入れる「分野横断プロモート」をG研究機構IIにおいてもさらに強化促進する。

イノベーション・シーズの社会展開



パートナー機関、産学連携コーディネーターや知財プロデューサーらと多様・豊富な企業経営、政策運営の経験・人脈を有する岡山大学URAの協働によるイノベーション・シーズの社会展開による貢献と科学技術・学術研究の発展・持続性を担う利益を確保。

グローバルURA

A strategic plan to contribute to Okayama University
Research development

Dr. Bernard CHENEVIER

Senior Research Administrator
CNRS Director of Research



OKAYAMA UNIV.



It's important to keep challenging yourself and asking questions. In doing so, you are bound to
make new discoveries.

国際競争力の向上に向けた取組

1. リサーチインタビュー(英語):主に、物理、化学、材料科学、基礎生命科学分野
【狙い】学内研究シーズの把握
 2. アクティブな研究者の海外派遣
【狙い】研究活動の積極的なPR力の向上及びネットワーク構築
 3. 海外トップレベルの研究機関とのモビリティの向上(主に欧州):インターンシップ等
【狙い】研究者及び大学院生の国際交流を通じた、国際共同研究への発展
 4. 大学英文ホームページの整備
【狙い】研究活動の国際水準での可視化
 5. 海外の大学・研究機関の訪問及び共同研究マッチングの実施
【狙い】国際的ビジビリティの向上、モビリティの強化、国際共同研究の強化
主にURAが海外の大学研究機関を訪問し、面談を実施。
大学の研究テーマを紹介すると共に、共同研究や研究交流の可能性について協議。後日、メールにてフォローアップを実施し、具体的な連携に繋げる。
- 6. 岡山大学 Chair of Excellence Program (OUCE)**
【狙い】世界トップレベルの研究者の誘致及び大学-企業-世界トップレベル研究者の国際共同研究チームの構築

提案



岡山大学の継続した発展とグローバル化に備えるため、少なくとも研究面での対応に遺漏が出ないように、研究がわかるURAに事業費を与え、その活動能力・機能を更に向上発展させるべきである。

事業費捻出には、様々な方法が想定される。運営費交付金からの捻出だけでなく、例えば、獲得した競争的資金(間接経費)の学内配分先にURAを加えることなどがバランスのとれた現実的な対応策と考えられる。

URA事業費(仮称)の用途としては、主に学長のリーダーシップ発揮を支援する目的が考えられる。

具体的には、(1)海外への研究関連情報の発信と権利化、(2)海外を含む学外情報の収集と分析、(3)情報、政策等のArchives作成が想定される。

以上

産学官出身URAの協働による 科学技術・学術研究 マネジメントシステムの確立へ

ご静聴ありがとうございました

